

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02377

研究課題名(和文)『源氏物語』古注釈の展開と平安文学の受容に関する基礎的研究

研究課題名(英文)On the Development of Ancient Commentaries on Genji monogatari and the Reception of Heian Literature: A Fundamental Study

研究代表者

陣野 英則 (Jinno, Hidenori)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：40339627

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：この事業は、『源氏物語』の古注釈書の研究、および近現代における平安文学の受容に関する研究という二つの柱を立てて実施した。

前者では、室町末期の重要な古注釈書ながら、未だ翻刻のない『長珊聞書』の翻刻を中心に据えた。膨大な全体のうち四分の一の翻刻と入稿、さらに初校の校正までは終えており、いずれ公刊の予定である。また、研究会活動で、他の未翻刻の古注釈書について検討も行った。

後者では、藤岡作太郎と黎明期の国文学に関して調査・検討を進め、論文二篇を発表した。また、藤岡に関する著書(単著)の準備も進めた。さらに、現代作家の『源氏物語』翻案作品について論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果には、大きく分けて二つの意義がある。

第一には、翻刻がなく、かつ影印(当の写本を撮影した写真)すら容易にアクセスしがたい『源氏物語』の古注釈書を翻刻し、公刊することによって、研究者たちに便宜を図ることとなる。

第二には、『源氏物語』などの平安文学が近現代においていかに受けとめられたのか、また翻訳・翻案によっていかに「再生」したのかといった問題に関して、新たな視座を提供した点である。具体的には、明治時代の国文学の実態に迫ったことで、今の平安文学の受けとめ方の基盤を反省的にとらえ直す契機となるだろう。あわせて、翻訳以上、翻案未満の営為がもつ現代的な意味がひろく共有されるように図った。

研究成果の概要(英文)：The present project was structured around the two pillars of research involving the study of ancient commentaries on Genji monogatari and the study of modern-era reception of Heian literature.

The first portion centered on the transcription of the Chosan kikigaki, a hitherto un-transcribed yet significant commentary. As a result of this concentrated effort, a quarter of this massive work was transcribed and sent to the press, with its first draft now completely proofread and slated for eventual publication. The research group activities additionally saw to the examination of other un-transcribed ancient commentaries.

The latter half of the project then furthered investigation into Fujioka Sakutarō, and the national Japanese literature in its early days, subsequently producing two papers. A single-author monograph on Fujioka is likewise in the works now. What's more, it also entailed discussions regarding the adaptations of Genji monogatari penned by modern-era writers.

研究分野：日本古典文学、特に平安時代の物語文学。

キーワード：平安文学 源氏物語 古注釈 長珊聞書 受容 町田康 藤岡作太郎 明治期の国文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、かつて申請者が代表となっていた科学研究費補助金によって展開してきた研究、特に直近の「『源氏物語』を中心とする平安文学の古注釈と受容に関する研究」(基盤研究(C)、2011~2014年度)で取り組んできた研究を踏襲、発展させつつ、多方面へのひろがりをもつ研究へと展開させることをもくろむものであった。

その背景は、以下の二点に整理される。

(1) 『源氏物語』の古注釈の中には、かなり重要度の高いものであっても未だに翻刻さえなされていない注釈書が数多くある。また、『紫明抄』、そして『河海抄』などといった頻りに用いられる古注釈書に関しても、既に翻刻されているものと系統を異にする写本の実態に関する把握は、なお不十分な段階にあるといえる。

(2) 古典文学の受容に関する研究はさまざま展開しているが、特に近現代における受容のあり方を考える上では、その基盤となる明治時代の国文学の検討がいっそうなされるべきであると考えられた。それとともに、近年ますます活性化している翻訳・翻案研究と、平安文学に関する受容の研究とを緊密に関わらせてゆくことが求められる状況にあった。

2. 研究の目的

本研究では、次の二つの目的を設定した。

(1) 『源氏物語』古注釈書(特に未翻刻のもの)についての調査・翻刻をすすめる。特に、室町後期に成立した大部の『長珊聞書』(陽明文庫蔵、全53冊)については、本研究に取り組む以前から研究分担者および研究協力者とともに調査・翻刻を進めてきたが、その正確な翻刻の公刊をめざす。

あわせて、主要注釈書というべき『紫明抄』および『河海抄』の諸本を見比べ、特に翻刻がなされていない系統の本などについて調査と翻刻を行い、鎌倉時代から南北朝時代の注釈の生成のあり方をとらえなおす。

(2) 近現代の平安文学受容に関して、新たな視座から研究する。

ひとつは、「国文学」という学問の黎明期に関して、いかなる学制のもとで、いかなる基盤が形成されたのかという観点から、古典文学の受容のあり方をとらえなおす。その際、『国文学全史 平安朝篇』で知られる明治時代の傑出した国文学者、藤岡作太郎と、その先輩にあたる芳賀矢一を中心に検討する。

もうひとつは、現代の翻訳・翻案の最前線における実践に着目し、それらを新たな受容のあり方として位置づける。具体的には、「源氏物語千年紀」にあわせた新潮社の企画で、現代の第一線の作家たちが発表した『源氏物語』の翻訳・翻案作品に注目し、現代によみがえる新たな『源氏物語』の姿をとらえる。他方において、英語圏での平安文学の翻訳の事例を積極的に評価する立場から、翻訳不能とさえいわれる和歌、また近現代の短歌の翻訳がいかになされているのかということ、翻訳家たちから学ぶ機会を設け、翻訳の有する可能性を探究する。

3. 研究の方法

本研究では、上記の「2. 研究の目的」に記した二つの項目に対応するよう、以下の二つの具体的な方法を想定して研究に取り組んだ。

(1) 本研究の開始以前から古注釈の研究会などの活動において連携してきた、研究分担者および研究協力者との協力体制を確立した上で、『源氏物語』古注釈書のうち、本研究の開始前から翻刻に取り組んできた『長珊聞書』全53冊の精密な翻刻を続ける。その正確さを重視するため、盤石のチェック体制で少しでもミスが少ない翻刻書となるように努める。

また、中書本系の『河海抄』(早稲田大学図書館蔵九曜文庫本)、ならびに三冊本『紫明抄』(内閣文庫蔵)について、古注釈の研究会においてとりあげ、それぞれの注釈書の成り立ちなどについて検討する。

(2) 明治期の「国文学」の検討に関しては、キーパーソンの一人である藤岡作太郎の旧蔵書(石川県立図書館季花亭文庫)を調査するとともに、当時の学制のあり方、国文学関係の図書の出版状況なども調査・検討する。

一方、現代に関しては、特に小説家たちの翻訳・翻案のさまざまな例を見渡し、新たな傾向を把握するとともに、英訳を中心に日本文学の翻訳の最前線に関する情報を収集しつつ、翻訳者たちとの接触も図る。

4. 研究成果

本研究の成果については、おおむね次の(1)から(6)の六項目に整理することができる。これらのうち(1)と(2)は、「2. 研究の目的」の一つ目に対応し、(3)から(6)は二つ目の目的に対応している。

(1) 『長珊聞書』(陽明文庫蔵、全53冊)は、約3100丁に及ぶ注釈書であり、最終的には二段組みで四分冊の翻刻書となる予定である。この大部の注釈書は、未だに翻刻さえなされていないものであるが、室町時代後期の『源氏物語』注釈史において無視しえない重要な注釈である。初の翻刻ということになるので、公刊に向けてできる限り慎重に原稿のチェックを行う体制をとり、相応の時間も費やしてきた。

その結果、この四年間で全体の四分の一の翻刻とそのチェック、さらに入稿、そして初校の校正までは完了した。その後、再校に取り組みはじめた段階から、他の研究・業務などのかねあいで進行が滞った面があり、残念ながら最終年度内の第一分冊の公刊には至らなかった。ただし、上記のように再校の段階まで進んでいるので、いずれ遠からぬうちに第一分冊を公刊することとなるだろう。

(2) 研究分担者および研究協力者を中心メンバーとし、研究代表者が世話役となっている古注釈の研究会では、長年にわたって未翻刻の注釈書の類いをとりあげてきた。本研究に入る前までは、主にマイナーな近世の注釈書などをとりあげることが多かったが、本研究においては、既によく知られている注釈書ではあっても系統を異にする写本についての研究はあまりなされておらず、また翻刻もない場合が多いことから、それらに注目し、とりあげることとした。

本研究の四年間では、まず南北朝期の代表的な注釈書である『河海抄』を、次いで鎌倉時代の注釈書としてもっとも著名な『紫明抄』をとりあげることとした。

『河海抄』については、中書本系『河海抄』(早稲田大学図書館蔵九曜文庫本)をとりあげ、同じ中書本系の天理図書館蔵伝一条兼良筆本も含めて、中書本系『河海抄』の注のあり方に関して探究を深めた。

一方、『紫明抄』については、特に成立過程について定説がいまだにみられない三冊本『紫明抄』(内閣文庫蔵)を対象に選び、共同で翻刻と注記内容の検討をすすめてきた。三冊本は、他の『紫明抄』に比べて明らかに全体の分量が少ないのだが、個々の注記内容を検討してゆくと、三冊本の注記のあり方はとても一筋縄ではゆかないものであった。単純に元々長く記されていた注記を短くしたというような例ばかりではなく、主要諸本にみられない注記が少なからず含まれていることは、とりわけ注目に値するということを確認した。

なお、この研究会での翻刻と調査にあたっては、研究会に参加しているキャリア初期研究者、および大学院生が積極的に担当し、それぞれの知見を深めてもらうことにもなった。幸い、四年間で新たな参加者もかなり増えた。

(3) 明治期に誕生することとなった「国文学」という新たな学問が、日本古典文学、とりわけ平安文学をどのように学問の対象としていったのかという観点から、学制に関わる諸問題をおさえ、また「文学史」関連書籍が濫造される状況などをもとらえた上で、藤岡作太郎とその先輩にあたる芳賀矢一の二人に注目し、2019年、論文二篇をまとめた。

特に藤岡作太郎については、関係する研究論文、ならびに伝記的な資料などを収集するとともに、2018年夏には、金沢市の石川県立図書館に出向き、李花亭文庫という藤岡の旧蔵書を調査する機会を得た。その中には多数の書入れを含む『堤中納言物語』の写本などがあり、いずれあらためて調査する必要があると考えている。一方、明治期の国文学を考える上で大変興味深いこととして、藤岡よりも三歳年長で、近代日本における国文学というアカデミズムの確立に深く関わった芳賀矢一の著書があり、その中に鉛筆書きで藤岡の筆跡と思われる書入れを発見するということがあった。その書入れはさほど多くはないのであるが、明らかな誤字をチェックするというような例が散見されるだけでなく、芳賀の叙述に対して揶揄するような辛口の批評も含まれていた。このような資料調査の結果については、この間に公にした二篇の論文ではとりあげていない。藤岡については、近々一冊の単著をまとめる予定があり、上記のような調査の結果と考察をも取り込んでゆく予定である。

(4) 現代における『源氏物語』受容の最前線の例として、『源氏物語 九つの変奏』(新潮文庫)に収められた町田康の作品「末摘花」について、独自の検討を試みた。光源氏の一人称叙述に変換されているこの作品では、関西弁混じりのユニークな現代語が炸裂しているが、実は「翻案」というより「翻訳」と見なすべき内実をそなえている。さらには、『源氏物語』の「人称」の欠落した叙述にも親近する面が析出されてきた。そうした特質について、2016年度末にパリで開催された国際シンポジウムで報告するとともに、このシンポジウムにもとづく論集に論文を寄稿した。

(5) 2018年3月、世界各地のキャリア初期研究者たちが集結し、早稲田大学で開催された国際研究集会において、平安文学などの受容に関する研究発表が複数組まれていたことから、これを賛助した。その成果は、常田禎子・唐仁原エリック編『日本文学のネットワーク：重なり合う言説・イメージ・声：日本文学・文化国際研究会研究報告』(日本文学・文化国際研究会)にまとめられている。

(6) 2019年11月、平安時代の和歌をふくむ日本の詩歌がいかにかに英訳されうるのかということ

をテーマとして、講演会とワークショップを一体化させた国際研究集会「翻訳の力 詩歌を訳す？」(早稲田大学総合人文科学研究センター「創作と翻訳の超領域的研究」部門主催)に、共催者として関与した。

この研究集会の企画・コーディネートに関しては、本研究の研究協力者である緑川眞知子氏にお願いした。そして、和歌ならびに近現代詩歌の英訳者の方々が、講演、報告などを行った。特に、膨大な和歌の英訳で傑出した活躍を続けている英国・シェフィールド大学のトーマス・マッコリー氏、ならびに与謝野晶子作品の英訳、あるいはまた大岡信による『折々のうた』の英訳などで高い評価を受けている大東文化大学(名誉教授)のジャーニーン・バイチマン氏に講演をしていただいた。なお、この催しにおける講演、およびワークショップでの提言などは、2020年10月刊行予定の『WASEDA RILAS JOURNAL』第8号に、特集として掲載される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 明治期の「文学」史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 344-355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 69-1
2. 論文標題 文学教育にかかわる私的経験から 翻訳された文学の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本文学』（日本文学協会）	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵・配川美加・高桑いづみ・星野厚子	4. 巻 69
2. 論文標題 アクセントからみた長唄《英執着獅子》と《越後獅子》	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本女子大学紀要 文学部』（日本女子大学文学部）	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 15
2. 論文標題 室町末期謡本の胡麻章	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『論集』（アクセント史資料研究会）	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新美哲彦	4. 巻 188
2. 論文標題 『我が身にたどる姫君』の成立時期	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国文学研究』（早稲田大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中悠希	4. 巻 15
2. 論文標題 『枕草子』の本文の論理 宮仕えする「身」の諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』（古典ライブラリー）	6. 最初と最後の頁 未定（掲載決定）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 -
2. 論文標題 「虫めづる姫君」の教え	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『次世代に伝えたい新しい古典 「令和」の言語文化の享受と継承に向けて』（武蔵野書院）	6. 最初と最後の頁 117-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 12
2. 論文標題 『篁物語』に関する断章 「右大臣のむすめ」への求婚をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』（早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 明治期の「文学」研究とアカデミズム 国文学を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 翻訳以上、翻案未満の『源氏物語』 町田康「未摘花」の場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『源氏物語を書きかえる 翻訳・注釈・翻案』（青簡舎）	6. 最初と最後の頁 251-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 101
2. 論文標題 聞かれる物語と書かれた物語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中古文学』（中古文学会）	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 -
2. 論文標題 広岡浅子の和歌の書きぶり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『広岡浅子「草詠」』（翰林書房）	6. 最初と最後の頁 203-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 14
2. 論文標題 アクセント史料としての定家仮名遣い 「第七種の文献、文字の使い分け」の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『論集』（アクセント史資料研究会）	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 61
2. 論文標題 近松作浄瑠璃に仕組まれた音韻表現：動詞の活用と音便（特集 近松(下)上演編）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歌舞伎：研究と批評』（歌舞伎学会）	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新美哲彦	4. 巻 63
2. 論文標題 作り物語の和歌的表現 中世王朝物語を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中世文学』（中世文学会）	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 6
2. 論文標題 『栄花物語』と平安朝物語の関係 『うつほ物語』の影響、成熟する歴史語り	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』（古典ライブラリー）	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 66-4
2. 論文標題 『源氏物語』のつくられた「語り」 「閑屋」巻を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本文学』（日本文学協会）	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 3
2. 論文標題 物語叙述の主体 物語論における光源氏の発言を手がかりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』（古典ライブラリー）	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 183
2. 論文標題 『篁物語』の構成と言葉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国文学研究』（早稲田大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 復刊26
2. 論文標題 『源氏物語』 「野分」巻の叙述と「間主観性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『平安朝文学研究』（平安朝文学研究会）	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵・川上真由子・林美樹・シラージ アンドレア	4. 巻 24
2. 論文標題 「大蔵流茂山家狂言台本翻刻」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本女子大学大学院文学研究科紀要』（日本女子大学大学院文学研究科）	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 13
2. 論文標題 『土左日記』はどう写されたか- 古典書写と仮名遣い	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『論集』（アクセント史資料研究会）	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 57
2. 論文標題 資料紹介「浄瑠璃秘伝」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国文目白』（日本女子大学国語国文学会）	6. 最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 67
2. 論文標題 長唄 京鹿子娘道成寺 に摂取された謡 旋律とアクセント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本女子大学紀要 文学部』（日本女子大学文学部）	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本清恵	4. 巻 -
2. 論文標題 定家仮名遣いの継承	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『定家のもたらしたもの』（翰林書房）	6. 最初と最後の頁 107-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新美哲彦	4. 巻 -
2. 論文標題 紫式部像の変遷 文の人のイメージ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本「文」学史 第二冊 「文」と人びと 継承と断絶』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 110-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中悠希	4. 巻 -
2. 論文標題 諸本論は『枕草子』研究を革新できるか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中悠希	4. 巻 -
2. 論文標題 『源氏物語』「初音」巻の表現 六条院の情景描写をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ひらかれる源氏物語』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 267-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 ナラトロジーのこれからと『源氏物語』 人称をめぐる課題を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『新時代への源氏学 9 架橋する 文学 理論』(竹林舎)	6. 最初と最後の頁 96~122
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 『花枝折る少将』の切り詰められた世界 終末部における中将の乳母登場の意義など	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『堤中納言物語の新世界』(武蔵野書院)	6. 最初と最後の頁 49~68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 218
2. 論文標題 古典テキストの中の越境と交流 『篁物語』を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文学・語学』(全国大学国語国文学会)	6. 最初と最後の頁 67~78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中悠希	4. 巻 91
2. 論文標題 実践女子大学図書館黒川文庫蔵「清少納言枕草紙」の本文とその位置付け	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文学論藻』(東洋大学文学部日本文学文化学科)	6. 最初と最後の頁 21~35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新美哲彦	4. 巻 97
2. 論文標題 シンポジウム「室町戦国期の『源氏物語』 本の流通・注の伝播」趣旨説明	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『中古文学』（中古文学会）	6. 最初と最後の頁 2～5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 -
2. 論文標題 後期物語から見る物語史 『源氏物語』の複合的引用と多重化する物語取り	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『新時代への源氏学8 物語史形成の力学』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 165～188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 -
2. 論文標題 『夜の寢覚』の引歌表現「思ふももの心地」をめぐって 『源氏物語』葵巻の六条御息所との関わりから	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『平安後期 頼通文化世界を考える 成熟の行方』（武蔵野書院）	6. 最初と最後の頁 407～430
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 -
2. 論文標題 六条斎院バイ子内親王家「物語合」の復原 『後拾遺和歌集』の詞書の再検討を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『堤中納言物語の新世界』（武蔵野書院）	6. 最初と最後の頁 25～47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横溝博	4. 巻 -
2. 論文標題 『虫めづる姫君』を読む 冒頭部の解釈をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『堤中納言物語の新世界』（武蔵野書院）	6. 最初と最後の頁 69～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 漢籍・漢詩文の知識を伝達する『源氏物語』
3. 学会等名 2019年度 東アジア知識人文学 国際学術大会 檀国大学校 早稲田大学共同学術大会「東アジアの知識交流のメカニズム：知識の生産と伝達」（早稲田大学 文学学術院）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』 「少女」巻における『文選』とのかかわり
3. 学会等名 北京大學人文論壇 "中日古典學工作坊" 第二屆學術研討會（北京大学）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新美哲彦
2. 発表標題 The Visualization of The Tale of Genji in Manga
3. 学会等名 lunch time lecture Centre for Japanese Research（プリティッシュ・コロンビア大学）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新美哲彦
2. 発表標題 新出「若紫」巻の『奥入』と本文
3. 学会等名 シンポジウム「人がつなく『源氏物語』 新発見「若紫」をめぐる」(中古文学会・朝日新聞共催、新型コロナウイルス感染症のため座談会形式での開催)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』「若菜下」巻の中国故事 不穩を示唆する方法
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ(早稲田大学 文学学術院)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 日本古典文学における「身」と「心」 『古今集』と『篁物語』の場合 [
3. 学会等名 国際シンポジウム 東北アジア人文学の新傾向(仁川大学校 孔子学院)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 平安時代の物語文学とナラトロジー
3. 学会等名 日本文学と歴史的ナラトロジー(ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン アジア研究部日本センター)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本清恵
2. 発表標題 アクセントからみた英執着獅子と越後獅子
3. 学会等名 日本女子大学文学部・文学研究科 学術交流企画シンポジウム「長唄における獅子物 その二 英執着獅子と越後獅子」(日本女子大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本清恵
2. 発表標題 Waka Inscription and Kana Evolution
3. 学会等名 WAKA WORKSHOP (University of Illinois,Urbana-Campaign) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新美哲彦
2. 発表標題 江戸時代の俗語訳『源氏物語』について～『紫文蟹之囀』を中心に～
3. 学会等名 第12回ブラジル日本研究国際学会・第25回全伯日本語・日本文学・日本文化学会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 散逸『初雪』物語攷 『栄花物語』「かかやく藤壺」の背景
3. 学会等名 中世王朝物語研究会(中京大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 聞かれる物語と書かれた物語
3. 学会等名 中古文学会 平成29年度秋季大会（静岡大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本清恵
2. 発表標題 文楽に現れる連声と音便
3. 学会等名 2017年 歌舞伎学会秋季大会（早稲田大学 小野記念講堂）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 新美哲彦
2. 発表標題 中世王朝物語と和歌
3. 学会等名 中世文学会 平成29年度春季大会（明治大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 NIMI, Akihiko
2. 発表標題 Text and Image in Baio's versions of The Tale of Genji
3. 学会等名 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (Universidade Nova de Lisboa) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 室町期古典注釈における 注 の在りか / Classics in the Muromachi Period: The Changing Function of the “Commentary” in Commentaries
3. 学会等名 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies (Universidade Nova de Lisboa) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 牢屋奉行の源氏学 『窺原鈔』の成立
3. 学会等名 2017東北アジア国際言語文化研究基地年次大会 (吉林大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 『源氏物語』の美と表現 柏木像の形象と影響について
3. 学会等名 吉林大学外国語学院日本語学科・東北大学大学院文学研究科「学術講座」(吉林大学) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 日本文学という新しい試み 日本研究の理想と課題
3. 学会等名 2017年度輔仁大学日本語文学科・台湾日本語文学会国際学術シンポジウム「社会的役割を果たす日本語文学研究の推進」(輔仁大学) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』のつくられた「語り」 「関屋」巻を例に
3. 学会等名 日本文学協会第71回（2016年度）大会（二松学舎大学）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 翻訳以上、翻案未満 町田康「未摘花」(源氏物語 九つの変奏)の場合 (Plus qu'une traduction, moins qu'une adaptation : le cas de 《La Fleur dont se cueille la pointe》 par Machida Ko (Neuf variations sur le Roman du Genji))
3. 学会等名 国際シンポジウム「源氏物語を書き変える：翻訳、註釈、翻案」（フランス国立東洋言語文化大学〔INALCO〕 日本研究センター、パリ・デイドロ大学 東アジア文明研究センター）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本清恵
2. 発表標題 謡曲の音声 現代と室町期
3. 学会等名 研究集会「国語学から見た能楽伝書」（野上記念法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的研究拠点」）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 坂本清恵
2. 発表標題 「土佐日記」はどう写されたか - 古典書写と仮名遣い -
3. 学会等名 國學院大學国語研究会 平成28年度後期大会（國學院大學）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 『源氏物語』の勝利 絵合巻から (《Le triomphe du Dit du Genji : un examen du 《Concours de peintures》》)
3. 学会等名 研究と対話の国際集会「他者のスペクタクル 日仏間の移動と文化的移行」(東北大学)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横溝博
2. 発表標題 王朝物語史のメルクマール 藤原頼通の時代 ("Mercurmar of The History of Court Literature The Era of FUJIWARA no Yorimichi ")
3. 学会等名 国際日本学ワークショップ「交響する 知 のネットワーク」(ヴェネチア大学)(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則(共編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 632
3. 書名 『日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』	

1. 著者名 坂本清恵(翻刻)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 157
3. 書名 『入鹿大臣皇都諍 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集(第六期)』	

1. 著者名 レベッカ・クレメンツ・新美哲彦(共編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 752
3. 書名 『源氏物語の近世 俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典』	

1. 著者名 岡嶋偉久子・加藤洋介・新美哲彦・上野英子・久保木秀夫・横井孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 266
3. 書名 『源氏物語 本文研究の可能性』	

1. 著者名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則(共編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』	

1. 著者名 河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重(共編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 564
3. 書名 『日本「文」学史 第二冊 「文」と人びと 継承と断絶』	

1. 著者名 横溝博・久下裕利(共編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 武威野書院	5. 総ページ数 222
3. 書名 『堤中納言物語の新世界 知の遺産シリーズ4』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂本 清恵 (Sakamoto Kiyoe) (50169588)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	
研究分担者	新美 哲彦 (Niimi Akihiko) (90390492)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	宮川 葉子 (Miyakawa Yoko) (90296301)	淑徳大学・国際コミュニケーション学部・教授 (32501)	2017年度以降、辞退。
研究分担者	山中 悠希 (Yamanaka Yuki) (40732756)	東洋大学・文学部・講師 (32663)	
研究分担者	横溝 博 (Yokomizo Hiroshi) (30303449)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	